

## 8年後のバーチャル同級会

現在の6年生が20歳を迎えたときをイメージした「バーチャル同級会」の会話です。  
まちづくりの内容は、6年生へのアンケートをもとにまとめました。

平成28年に岡崎小学校を卒業した若松君、柱君、羽根西さん、針崎さんは8年ぶりに当時の担任の岡崎先生に会いに来ました。

**若松、柱、羽根西、針崎** 岡崎先生、こんにちは。

**岡崎先生** まあ、4人そろって来たのね。あなたたちも、とうとう20歳ね。

**若松** はい。久しぶりに学校に来たんですが、ずいぶん大きな学校になりましたねえ。新しい校舎ができたんですね。

**柱** 学校より大きい建物があるよ、病院。評判がいいので、他の市や県からも患者さんが来てるって話だよ。

**羽根西** そんなにたくさんの方が来るのに、道路は混んでいないし、交通事故も少ないってすてきね。

**針崎** 道路や公園が、夜も明るくて安全なのがいいわ。バイトで遅くなっても安心。

**若松** 公園って言えば、外国の人をよく見かけるねえ。

**柱** そうそう。子どもやお年寄りも、外国の人が仲良く遊んでいるのは、全然めずらしくないしね。岡崎学区は国際都市になってる(笑)。

**羽根西** スーパーやホームセンターがあつて便利なのも、いろんな人が集まる理由かもね。

**針崎** 私は人がたくさん集まってきたところが好き。

**若松** 新しいきれいな家がたくさんできたからだろうね。前から住んでる人

も、いい環境のまちにするためによく掃除をするよ。

**柱** そういう見方でいうと、病院だけに頼らず、自分の健康を守るためにスポーツをしている人も多いよねえ。

**羽根西** 交通事故が少ないのも、みんながちゃんとルールを守ってるから。

**柱** どんな人とも仲良くできるのは、偏見の心がないから。

**岡崎先生** そうね。みんな、いいところも、人間がよくなくちゃだめよ。この岡崎学区がすばらしいのは、住んでいる人がいいからなの。区画整理はいつかは終わるわ。でもまちづくりは永遠に終わらない。輝かしい未来に翔けるために、あなたたちの力も必要なの。頼むわね。

**若松、柱、羽根西、針崎** はい、岡崎先生！

岡崎の宝物は今もむかしも人のあたたかさですね！



2016.7.1  
10th  
ANNIVERSARY  
OKAZAKI  
岡崎市創施行100周年

16

未来に翔けるまち

## 岡崎学区

OKAZAKI



## 編集後記

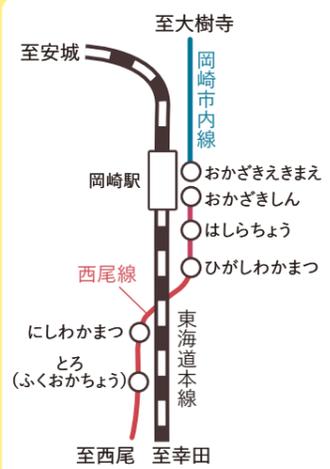
私たちのまちは歴史が古く、由緒ある歴史遺産も多いため、ともすると過去のことにも目が向きがちです。しかし近年は、新たに建設されつつある住宅地のことや、それに伴う幼児・児童世代の人口増加などにも関心が寄せられています。まちの歴史をふり振り返りつつ現在の状況を見ると、今も止まることなく発展を続けているんだなと実感できます。そんなまちの力強さに思いを込めて、表紙のキャッチコピーを「未来に翔けるまち」としました。次の100年が楽しみになります。

〔作成委員会〕 会長：梶尾長夫(学区総代会長)、編集委員：森光明/吉見雅俊/石川利博/石川愛華(学区通信編集室)、協力委員：鴨下護(岡崎小同窓会長)/中谷守(親善クラブ会長)/石川勝也(学区社教委員長)/小野公夫(前学区福祉委員長)/内田康治(運動会実行委員長)/野本篤(元おやじの会会長)

〔参考資料〕 岡崎市史/岡崎南風土記

〔表紙写真〕 春の南公園遊園地

### COLUMN 「チンチン電車」の歩み



西尾駅と岡崎駅前前の岡崎新駅を結ぶ軽便鉄道「西三軌道」が明治44年に開通したのが始まり。以後、西尾鉄道、愛知電気鉄道西尾線、名鉄西尾線と変遷し、戦時中の昭和18年に休止されるまで沿線住民の足として活躍しました。昭和26年、岡崎駅前―福岡町(旧土呂)間が名鉄福岡線として復活。岡崎市内線と直通運行を開始し、「チンチン電車」の愛称で親しまれました。しかし昭和37年に廃止され、以後は名鉄バスの専用道路として平成28年3月まで使用されました。



明治41年から昭和51年までの68年間はJR岡崎駅の西付近にあった。いつの時代も運動場のど真ん中に大松(おおまつ)がそびえていた

- 一九八九年 ■ 平成1
- 一九九〇年 ■ 平成2
- 一九九六年 ■ 平成8
- 二〇〇四年 ■ 平成16
- 二〇〇七年 ■ 平成19
- 二〇〇八年 ■ 平成20
- 二〇一〇年 ■ 平成22
- 二〇一二年 ■ 平成24
- 二〇一三年 ■ 平成25
- 二〇一四年 ■ 平成26
- 二〇一六年 ■ 平成28
- 二〇二〇年 ■ 平成32
- 二〇三一年 ■ 平成43

羽根村覚照寺に第2大学区内第8番中学区第21番小学区羽根学校が創立  
 東海道本線浜松―大府間が開通し岡崎駅が開業  
 柱・針崎・若松・羽根・戸崎の5村が合併し額田郡岡崎村が誕生  
 小学校令実施により岡崎村立岡崎小学校と改称  
 岡崎馬車鉄道が岡崎駅へ乗り入れる  
 岡崎小学校が羽根字南乾地に校舎を新築移転  
 西三軌道の岡崎新―西尾間が開業  
 橋本増治郎、乗用車「DAT号」を東京大正博覧会に出品(↓特集)  
 岡崎紡績が日清紡と合併し日清紡岡崎工場(後に日清紡針崎工場)となる  
 額田郡岡崎村が岡崎市に合併  
 白鳩保育園が開園  
 岡崎小学校校歌を制定  
 名鉄岡崎市内線と福岡線が廃止され、バス路線化  
 南公園が都市公園として開園  
 大夫塚古墳が愛知県文化財(史跡)に指定  
 南公園に交通広場が開設  
 岡崎駅西土地地区画整理事業が開始(↓特集)  
 岡崎小学校が針崎町字フロアの現在地に校舎を新築移転  
 国鉄岡多線(愛知環状鉄道鉄道の前身)が旅客営業を開始  
 柱4丁目に大型食品スーパーが開店  
 JR岡崎駅が橋上駅となり東西自由通路が完成  
 若松町に大規模ショッピングモールが開店  
 岡崎駅西土地地区画整理事業が完了  
 日清紡針崎工場が操業停止  
 「平成20年8月末豪雨」で占部川・砂川が氾濫し大きな被害発生  
 岡崎駅南土地地区画整理事業が開始(↓特集)  
 岡崎市医師会はるさき健診センターが業務開始  
 翔南中学校が新設開校  
 第1回とびだせ!夏祭り開催  
 岡崎駅南土地地区画整理事業の造成工事が開始  
 岡崎小学校の創立140周年記念式典を挙行  
 名鉄バス福岡線専用道路が使用停止  
 「とびだせ!なかよし音頭」発表  
 大学病院が開業(予定)  
 岡崎駅南土地地区画整理事業が完成(予定)



南公園に続く丘陵地には平成19年まで「日清紡針崎工場」が操業し、大正、昭和、平成の長期間にわたり地域の中心的産業であった。工場跡地は住宅地「春咲の丘」として再開発され、岡崎市医師会はるさき健診センター、翔南中学校も相次いでできた。

- 一八七三年 ■ 明治6
- 一八八八年 ■ 明治21
- 一八八九年 ■ 明治22
- 一八九二年 ■ 明治25
- 一八九八年 ■ 明治31
- 一九〇八年 ■ 明治41
- 一九一一年 ■ 明治44
- 一九一四年 ■ 大正3
- 一九二〇年 ■ 大正9
- 一九二八年 ■ 昭和3
- 一九五三年 ■ 昭和28
- 一九六二年 ■ 昭和37
- 一九七五年 ■ 昭和50
- 一九七六年 ■ 昭和51

羽根村覚照寺に第2大学区内第8番中学区第21番小学区羽根学校が創立  
 東海道本線浜松―大府間が開通し岡崎駅が開業  
 柱・針崎・若松・羽根・戸崎の5村が合併し額田郡岡崎村が誕生  
 小学校令実施により岡崎村立岡崎小学校と改称  
 岡崎馬車鉄道が岡崎駅へ乗り入れる  
 岡崎小学校が羽根字南乾地に校舎を新築移転  
 西三軌道の岡崎新―西尾間が開業  
 橋本増治郎、乗用車「DAT号」を東京大正博覧会に出品(↓特集)  
 岡崎紡績が日清紡と合併し日清紡岡崎工場(後に日清紡針崎工場)となる  
 額田郡岡崎村が岡崎市に合併  
 白鳩保育園が開園  
 岡崎小学校校歌を制定  
 名鉄岡崎市内線と福岡線が廃止され、バス路線化  
 南公園が都市公園として開園  
 大夫塚古墳が愛知県文化財(史跡)に指定  
 南公園に交通広場が開設  
 岡崎駅西土地地区画整理事業が開始(↓特集)  
 岡崎小学校が針崎町字フロアの現在地に校舎を新築移転  
 国鉄岡多線(愛知環状鉄道鉄道の前身)が旅客営業を開始  
 柱4丁目に大型食品スーパーが開店  
 JR岡崎駅が橋上駅となり東西自由通路が完成  
 若松町に大規模ショッピングモールが開店  
 岡崎駅西土地地区画整理事業が完了  
 日清紡針崎工場が操業停止  
 「平成20年8月末豪雨」で占部川・砂川が氾濫し大きな被害発生  
 岡崎駅南土地地区画整理事業が開始(↓特集)  
 岡崎市医師会はるさき健診センターが業務開始  
 翔南中学校が新設開校  
 第1回とびだせ!夏祭り開催  
 岡崎駅南土地地区画整理事業の造成工事が開始  
 岡崎小学校の創立140周年記念式典を挙行  
 名鉄バス福岡線専用道路が使用停止  
 「とびだせ!なかよし音頭」発表  
 大学病院が開業(予定)  
 岡崎駅南土地地区画整理事業が完成(予定)

# 岡崎学区のなりたち



御田扇祭りの今昔風景。年々水田が減少しかつての雰囲気は失われつつあるが、今でも大勢の人が参加し盛大に執り行われる

に築造された「大夫塚古墳」と「北之切1号古墳」が残っており、柱地区にもそれらより古い遺跡があったといわれています。寺院には、徳川家康を苦しめた一向一揆の拠点の一つであった針崎地区の勝鬘寺をはじめ、柱地区に正覚寺、若松地区に等周寺があり、また御鍛神社、綿積神社、春日神社が氏神様として崇敬を集めています。

無形文化財には「御田扇祭り」があります。江戸時代の行政組織であった「山方手永」に属する占部川沿いの村々の25社(平成27年現在は13社)を巡る農業神事として、今も古式を守って受け継がれています。

### 史跡と祭り

学区の歴史の古さを物語るものとして、若松地区には5世紀後半

### 岡崎村の産業

明治21年の岡崎駅の開業後、岡崎馬車鉄道と西尾鉄道の乗り入れや、岡崎駅を起点とする道路網の整備などにより、物流の拠点となりました。同時に周辺の農地や林地が宅地化し、農業から商工業に転ずる動きも盛んになります。駅付近には服部工業(明治43年)、三河織物(明治42年)、岡崎紡績(大正8年、後の日清紡)、さらには三河製粉や三龍社の各工場が建てられ、岡崎南部の商工業地として発展の礎が築かれました。

### 岡崎学区の由来

明治22年の町村制施行により、岡崎駅周辺の柱・針崎・若松・羽根・戸崎の5村が合併し、額田郡岡崎村となりました。学区名はこの岡崎村に由来しています。ちなみに岡崎市に合併したのは市制施行から12年後の昭和3年のことでした。

### DATA



### 岡崎小学校の史跡



**H 大松二世**  
 旧岡崎小学校の校庭には2本の大松があった。学校が現在地に移転する時に伐採されたが、その後継ぎとして植えられたものがこの木である



**G 安藤先生頌徳碑**  
 大正12年から20年あまり岡崎小に勤務した安藤恒夫先生は、昭和20年7月19日の岡崎空襲のとき学校の様子を確かめに明大寺町の自宅から学校に向かう途中、被弾し殉職した



**I 太夫塚古墳**  
 古墳時代中期(5世紀)に造られた、墳丘直径36m、高さ5.5mの未発掘の円墳。周囲から埴輪や須恵器などが発見された。若松地区には他にもいくつかの古墳があった



**K 綿積神社**



**J 御歎神社**



**M 春日神社**



**L 正覚寺**



**N 等周寺**



**B 勝鬘寺**  
 三河最初の真宗道場として正嘉2年(1258)に創建。当時は赤洪町にあったが、水害を避けるため現在地に移転。永禄6年(1563)の三河一向一揆では一揆側が立てこもり家康に抗戦した



**A 旧愛知県第二尋常中学校講堂**  
 戸崎町にあった旧制愛知二中(後の岡崎高校)の講堂として明治30年に建てられた。中学校が明大寺町に移転した後も残されていたが、大正14年に現在地に移築され、日清紡の従業員の演劇、娯楽式典などに利用された

私たちのまちは、南北約2.2km、東西約1.7km。まちの中を歩くと、いろいろなものに出会えます。知らなかったこともあるかもしれません。ウォーキングののりに訪ねてみてはどうでしょう。わがまちの新しい魅力を発見するかも…。



**C 常夜灯**  
 明治44年に「柱辻(はしらつじ)組」町内有志によって柱町字北屋敷22番地の三叉路に設置され、区画整理事業により現在地に移設。道標を兼ね、「右=青野橋 西尾 大濱、左=幸田 蒲郡」と刻まれている

**F 道標**  
 「をかざきすてんしよ(おかざきステーション)」  
 明治32年、岡崎駅南約1kmの若松町字北之切の三叉路に設置され、後に勝鬘寺門前脇、さらに現在地へと移された。正面に「延命地藏」、右側面に「右をかざきすてんしよ、左のばた」、左側面に「左ふくをか」と刻まれている



### 岡崎学区の鉄道あれこれ



**E 名鉄バス専用道跡**  
 昭和37年の鉄道廃止後、バス専用道路として利用された。平成28年4月、沿線の再開工事に伴い廃止



**D マルガタ**  
 鉄道建設時に農業用道路と水路を通すために造られた煉瓦造りのトンネル。地元では「マルガタ」と呼ぶ

# 岡崎学区 わがまちウォーキングマップ

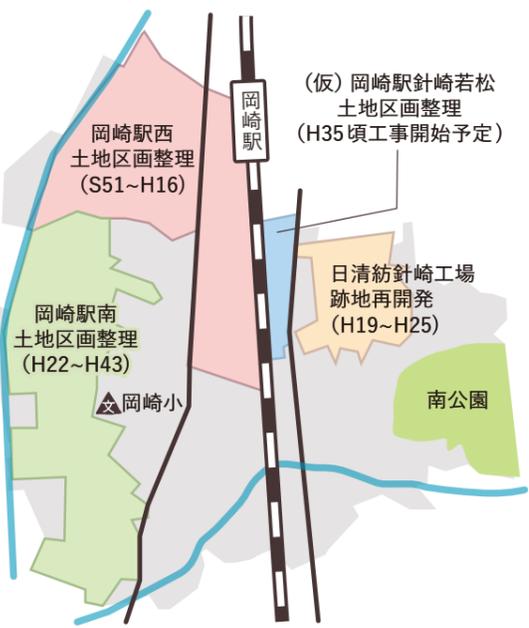
# 岡崎学区の伝えたいこと

## 中核市岡崎の南の玄関口として発展を続けるまち



現在の岡崎学区の空撮写真

### 岡崎駅周辺土地区画整理状況



明治21年に岡崎駅ができたものの、駅に隣接する地域は無秩序に住宅ができるばかりで、岡崎市全体の発展から取り残されるような様相でした。そのような状況を解消すべく、昭和43年に「国鉄岡崎駅周辺土地区画整理事業」が企画されましたが、反対の声が強く、計画は頓挫してしまいます。しかし「このままでは岡崎学区の未来はない」という意見も根強く、計画中止後もまちづくりについての話し合いが粘り強く続けられました。

そしてついに昭和51年、「岡崎駅西土地区画整理事業」が開始されました。対象地区は羽根町、

上和田町、柱町、針崎町、若松町（いずれも旧町名）の5町に及び、県道43号を始めとする道路の拡幅・整備、住宅の再配置、林公園などの公園や駅西口広場の新設が主な取り組みです。な

かでも一番大きなものが岡崎小学校の移転と南部市民センターの新設で、小学校は岡崎駅のすぐ西（現在の南部市民センター分館あたり）から、針崎町の現在地に移されました。この土地区画整理事業によって駅周辺は中核都市岡崎の南の玄関口にあふ

わしい姿に変貌しました。この事業は平成16年に完了しましたが、学区の発展はまだまだ続きます。平成22年度から「岡

崎駅南土地区画整理事業」がスタートしたのです。先の土地区画整理事業よりも南の岡崎小学校周辺が中心となり、占部川の改修、幹線道路の整備、計画的な住宅地の整備を主な目的とし

ています。これに伴って小学校周辺の広大な水田が埋め立てられ、大きな病院やスーパーなども建設されることになりました。この事業は平成43年度まで続けられます。自然豊かな田園地帯だった岡崎学区は、岡崎市のみならず隣接する幸田町の未来をも支える都市機能を持ったまちに生まれ変わるのです。



昭和後期の岡崎学区の空撮写真

## 日本の自動車製造の先駆者

## 橋本増治郎



橋本増治郎翁肖像 (岡崎小学校所蔵)

私たちの学区からは、橋本増治郎という日本の自動車づくりの草創期に大きな業績を残した偉人が誕生しています。

増治郎は明治8年に柱村19番戸（現在の柱六丁目地内）に生まれました。東京高等工業学校（東京工業大学の前身）を卒業後、国内の会社や米国の会社で技術畑を歩み、明治44年に東京麻布で「快進社」を設立。輸入自動車の修理や組立て販売をするかたわら、独自の自動車を開発しました。

大正3年に「DAT（脱兎）号」と命名した試作2号車を東京大正博覧会に出品し、銅牌を獲得すると、翌年にはDAT号の販売を開始します。これは、豊田喜一郎の「A1型乗用車」の試作完成より約20年も前のことです。

その後、快進社は、大正15年に大阪の自動車製造会社と合併し「ダット自動車製造株式会社」となりました。製造する自動車には、「DATの息子」の意味で「DATSON（後にDATSUNに改名）」と名づけました。

昭和6年、日産コンツェルンの創始者鮎川義介の率いる「戸畑物株式会社自動車部」に製造権を譲渡し、そのグループに入りました。この会社が後に「日産自動車株式会社」へと発展します。

晩年の増治郎は、昭和8年に「武蔵野モーター研究所」を開設し自動車や発動機などの研究を続け、昭和19年に70歳で他界しました。柱地区の綿積神社大鳥居の左脇に建つ石造の標柱には、正面に「村社綿積神社」、後面に「寄付人明治四十一年橋本増治郎」と刻まれています。

昭和8年に「武蔵野モーター研究所」を開設し自動車や発動機などの研究を続け、昭和19年に70歳で他界しました。柱地区の綿積神社大鳥居の左脇に建つ石造の標柱には、正面に「村社綿積神社」、後面に「寄付人明治四十一年橋本増治郎」と刻まれています。



DAT-41型

## 地域の活動

私たちのまちはおよそ2・25km<sup>2</sup>の広さで、ここに約4千世帯、1万人の人が生活しています。その地域活動の一部を紹介します。

### \*自治活動

- 4地区 18町内の総代で構成される学区総代会を中心に展開されます。
- 【柱地区 9町内会】柱一丁目・柱二丁目・柱三丁目・柱四丁目・柱五丁目・柱六丁目・羽根西新町・柱川田・柱郷南
- 【針崎地区 2町内会】針崎郷・針崎東
- 【若松郷地区 3町内会】若松郷北・若松郷南・若松郷東
- 【若松栄地区 4町内会】若松栄一丁目・若松栄二丁目・若松栄三丁目・若松栄四丁目

### \*福祉活動

地域の祭り・スポーツ大会・文化講座や高齢者支援活動、子育て支援活動、防災訓練、資源回収活動など、年間50件以上の行事が開かれます。これらの活動は、学区の総代会・社会教育委員会・福祉委員会の3組織を中核に、各種団体（学校開放委員会・体育連合会・子ども会・おやじの会・女性部・親善クラブ・民生児童委員会・岡崎小PTA・白鳩保育園父母の会・赤十字奉仕団・学区通信編集室など）が連携して企画運営をしています。また、消防団と交通安全協会のメンバーも協力します。

毎年5月の「学区合同なかよし運動会」、8月の「とびだせ！夏祭り」、9月の「学区敬老会」の三つのイベントについては、それぞれに実行委員会が組織され、各種団体と地域住民、さらに岡崎小学校や翔南中学校、白鳩保育園の協力も得て、学区全体で盛り上げています。

平成27年度には、文化的な事業を充実するための実行委員会も立ち上げられました。



とびだせ！夏祭りの盆踊りでは大きな輪ができる



▽学区合同なかよし運動会で白熱の綱引き



笑顔いっぱいの学区敬老会